

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成29年6月1日(木) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

発表事項

1. 平成29年度YU-COE(山形大学先進的研究拠点)が決定しました
〈拠点事例紹介〉「環境変化に対する迅速な生物進化の国際共同研究拠点」
2. 超薄型触覚ディスプレイ素子の開発(東海理化包括共同研究)
3. コワーキング・スペース“C&Cひがしね”を拠点とした
山形大学による地域価値創成の取組み
4. 山形大学男女共同参画フェスタ2017を開催します
5. 附属博物館特別展
「山形大学博物館ものがたり～収蔵品が語る90年のエピソード～」のお知らせ

お知らせ

1. 第4回山形大学・東華大学ジョイントシンポジウム開催について

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成29年6月19日(月) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

学長定例記者会見(6月1日)発表者

1. 平成29年度YU-COE(山形大学先進的研究拠点)が決定しました

〈拠点事例紹介〉「環境改変に対する迅速な生物進化の国際共同研究拠点」

学長

学術研究院 教授(多様性生物学)

こやま きよひと
小山 清人
よこやま じゅん
横山 潤

2. 超薄型触覚ディスプレイ素子の開発(東海理化包括共同研究)

学術研究院 教授(MEMS、マイクロマシン、超微細加工)

みねた たかし
峯田 貴

3. コワーキング・スペース“C&Cひがしね”を拠点とした

山形大学による地域価値創成の取組み

学術研究院 教授(コワーキング・スペース“C&Cひがしね”チーフプロデューサー)

おの ひろゆき
小野 浩幸

4. 山形大学男女共同参画フェスタ2017を開催します

学術研究院 准教授(男女共同参画推進担当)

いのうえ えいこ
井上 榮子

5. 附属博物館特別展

「山形大学博物館ものがたり～収蔵品が語る 90 年のエピソード～」のお知らせ

学術研究院 准教授(附属博物館学芸研究員)

附属博物館

さとう こと
佐藤 琴
おしの みゆき
押野 美雪

平成29年6月1日
山形大学

平成29年度YU-COE（山形大学先進的研究拠点）が決定

山形大学では、国際的に通用する高い水準にある研究拠点や、研究成果が社会、地域に大きく貢献する研究拠点を重点的に支援するとともに、将来、そのような拠点となり得る研究グループを発掘し、育成することを目的として、独自にYU-COE（山形大学先進的研究拠点）形成支援を行っています。

平成29年度は、（S）に4件（継続4件）、（C）17件（継続9件＋新規8件）の研究グループへの支援を決定しました（拠点一覧は別紙のとおり）。

【YU-COEの概要】

○拠点形成の目的

研究者の自由な発想において行われる研究の重要性を認識し、あらゆる分野の研究者がその能力を十分に発揮できる研究環境の整備に努める一方で、地域に根ざし世界をリードする大学として、国際的に通用する高い水準にあると認められる研究拠点については、重点的に支援するとともに、将来、そのような拠点となり得る学内の研究グループを発掘し、育成する。

○拠点の内容

研究グループを次のカテゴリーに分類し、支援する。

◇「YU-COE（S）」

大型の競争的研究資金を獲得するなど、外部からすでに拠点として認められている研究グループ。

◇「YU-COE（C）」

分野横断型の研究活動を行い、将来、国内外の先進的研究拠点となる可能性を有すると認められる研究グループ。

（お問い合わせ）

企画部研究支援課 篠塚・高橋・石澤

電話：023-628-4846

平成29年度 YU-COE形成支援拠点一覧

『YU-COE(S)』

No	研 究 拠 点	整理番号	拠点リーダー 職・氏名	新規・継続
1	総合スピン科学	S-1	教授 岩田 高広	継続
2	分子疫学	S-2	プロジェクト教員 (特任教授) 嘉山 孝正	継続
3	有機エレクトロニクス	S-3	教授 飯塚 博	継続
4	山形大学ナスカ研究所	S-4	教授 坂井 正人	継続
合 計 4拠点				

『YU-COE(C)』

No	研 究 拠 点	整理番号	拠点リーダー 職・氏名	新規・継続
1	先進的ライフサイエンス・イメージング研究拠点	C26-2	准教授 奥野 貴士	継続
2	ゲノム編集技術を使った新規研究モデル動物のリソース化拠点の形成	C26-3	准教授 越智 陽城	継続
3	地域価値創成に貢献するUniversity Entrepreneurship研究拠点	C27-1	教授 山口 昌樹	継続
4	予測医療を目指した医用画像・生体測定情報データ解析の研究拠点	C27-2	准教授 川崎 良	継続
5	おいしい山形を届けるパッケージ材料研究拠点	C27-3	准教授 東原 知哉	継続
6	重粒子線治療の高精度化を目指した医理連携研究拠点	C28-1	教授 根本 建二	継続
7	先端フードテクノロジー研究開発拠点	C28-2	教授 西岡 昭博	継続
8	ヘルスケア材料社会実装研究拠点	C28-3	准教授 野々村美宗	継続
9	山形大学メディカル・モデラーズ・プラットフォーム先端研究拠点 (略称:LPIC-MMP)	C28-4	教授 古川 英光	継続
10	フードリテラシー育成のためのカリキュラム開発に関する国際的研究	C29-1	准教授 大森 桂	新規
11	新規金属材料開発拠点形成	C29-2	准教授 金井塚 勝彦	新規
12	偏光をプローブとした高エネルギー宇宙物理学の研究拠点	C29-3	教授 郡司 修一	新規
13	環境変化に対する迅速な生物進化の国際共同研究拠点	C29-4	教授 横山 潤	新規
14	唾液中物質の網羅的・定量的測定技術を用いたSalivaomics研究拠点	C29-5	教授 飯野 光喜	新規
15	グリーンおよびライフイノベーションを実現する材料・加工研究拠点 (Materials and processing research center for realizing green & life innovation)	C29-6	教授 伊藤 浩志	新規
16	ドライフルーツを中心とした果実の6次産業研究拠点	C29-7	准教授 及川 彰	新規
17	水環境モニタリングによるアジアの薬剤耐性菌リスク研究拠点	C29-8	教授 渡部 徹	新規
合 計 17拠点				

平成29年6月1日

山形大学

平成29年度YU-COE（山形大学先進的研究拠点（C）） 環境改変に対する迅速な生物進化の国際共同研究拠点

人間活動などによる環境改変に対する生物の応答としての「迅速な生物進化」に注目して研究し、その成果を世界に向けて発信する「環境改変に対する迅速な生物進化の国際共同研究拠点」が山形大学先進的研究拠点（C）として採択されました。インドネシアの拠点との共同研究によって、環境改変に対する「迅速な生物進化」を統合的に明らかにし、先端的な研究成果の発信だけでなく、環境保全や人材育成にも貢献できる拠点形成を目指します。

【概要】

人間活動による大規模な環境改変は、人類が生態系から得ている様々な利益*1の質を低下させています。この生態系機能の低下に対して、生物はこれまで可塑性*2の範囲で対応していると考えられてきました。しかし近年は、迅速な生物進化が生じており、これが環境改変に対する生態系の変化に関係していることがわかってきました。しかし、迅速な生物進化研究は農作物－害虫などに集中しており、自然界での生態系機能の低下に対して、実際にどのような変化が起こっているのかはわかっていません。本拠点では、自然生態系を構成する昆虫・植物・微生物など、様々な生物を対象に、環境改変に対する迅速な進化を解明することを目的としています。分子生物学、進化学、保全生態学、農学といった、拠点メンバーが専門とするそれぞれの領域での方法や知見を集め、さらに人間の生活圏と自然圏、大災害の有無、大規模開発からの時間経過など、異なる条件のフィールドを日本（温帯域）とインドネシア（熱帯域）の両国で比較して、迅速な生物進化を遺伝子から生物群集レベルにわたって統合的に解明することを目的にしています。

【活動計画】

①平成29年度

日本・インドネシア両国で様々な条件の複数の地点を調査地として選定し、各拠点メンバーの研究対象について、環境改変に伴って生物各種の形態・生理・生態および群集構造に進化的な変化が生じているかを調査します。進化的な変化を検出したうえで、その形質変化の分子レベルでの基盤解明も試みます。

②平成30年度

前年度の研究をうけて、拠点として集中的に対象とする調査地および対象生物群を決定し、分子生物学的解析を集中的に行って、野外における迅速な生物進化を統合的に解析するためのプロトコルを確立します。年度末に成果をとりまとめるとともに、山形大学において公開国際シンポジウムを開催します。

（お問い合わせ）

学術研究院教授 横山 潤（多様性生物学）

電話：023-628-4772

E-mail: jyokoyam@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

解説

*1：人類が生態系から得ている様々な利益

これらの利益は、現在「生態系サービス」とよばれ、人間の視点から生態系の役割を評価する際によく考慮されています。一般に次の4つに分類されます。

- (1) 全ての生命の存在基盤となる、酸素の供給、気温・湿度の調整、水や栄養分の循環などの機能
- (2) 我々の暮らしの基盤となる、様々な資源（食料など）の供給、医薬品や作物などの品種改良のもととなる遺伝資源の供給など
- (3) 我々の暮らしを守る、土壌流出防止、防風、防波などの役割
- (4) 自然に根ざした豊かな文化や伝統の起源

*2：可塑性

生物が、もともと持ち合わせている遺伝的な特性の中から、環境の変化などに合わせて特定の性質を表す事を示します。可塑性のレベルで変化した生物の性質は、環境が元に戻ると、再びもとの状態に戻ります。

環境変化に対する 迅速な生物進化の 国際共同研究拠点

拠点リーダー
横山 潤
(学術研究院・教授)

生物多様性への脅威となるさまざまな環境変化



人為的変化(小規模)



自然災害(小規模)



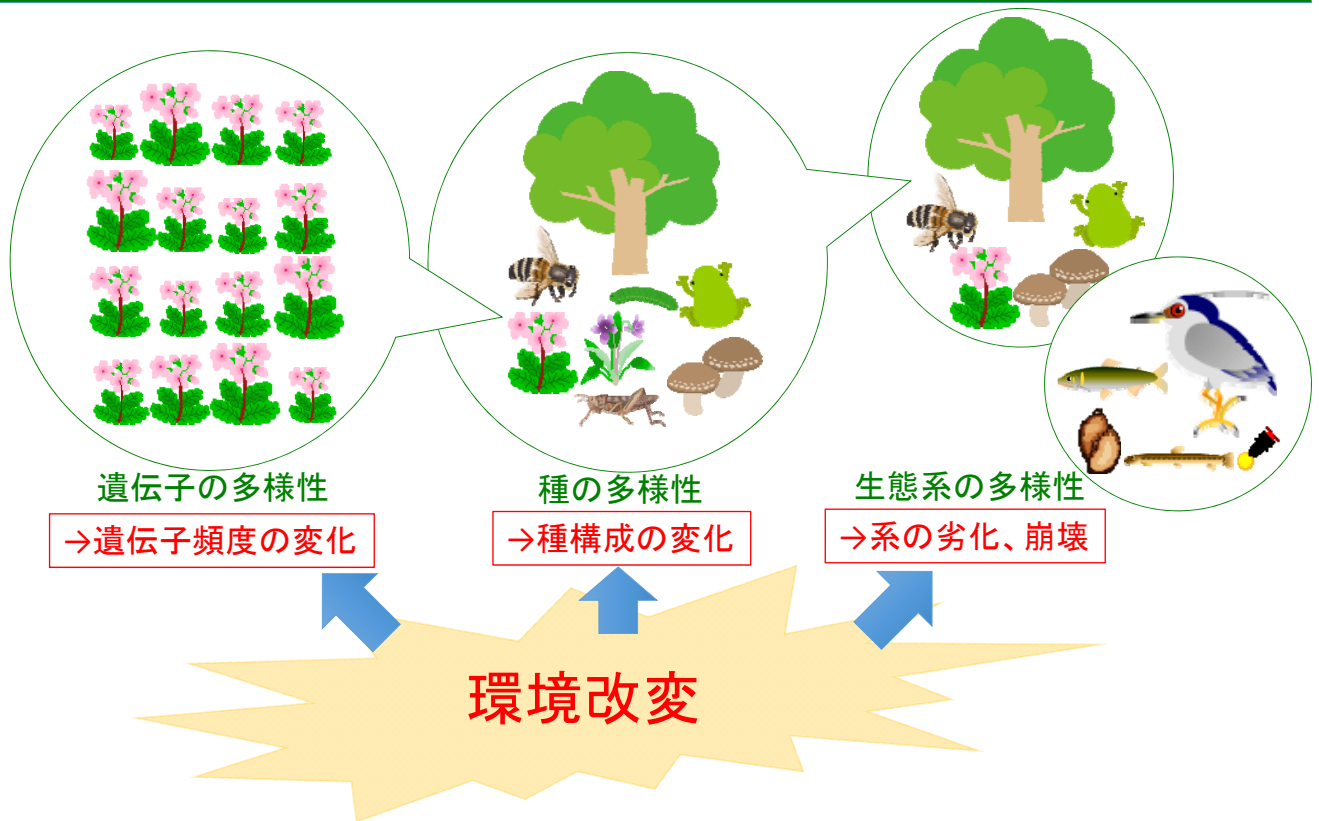
人為的変化(大規模)



自然災害(大規模)

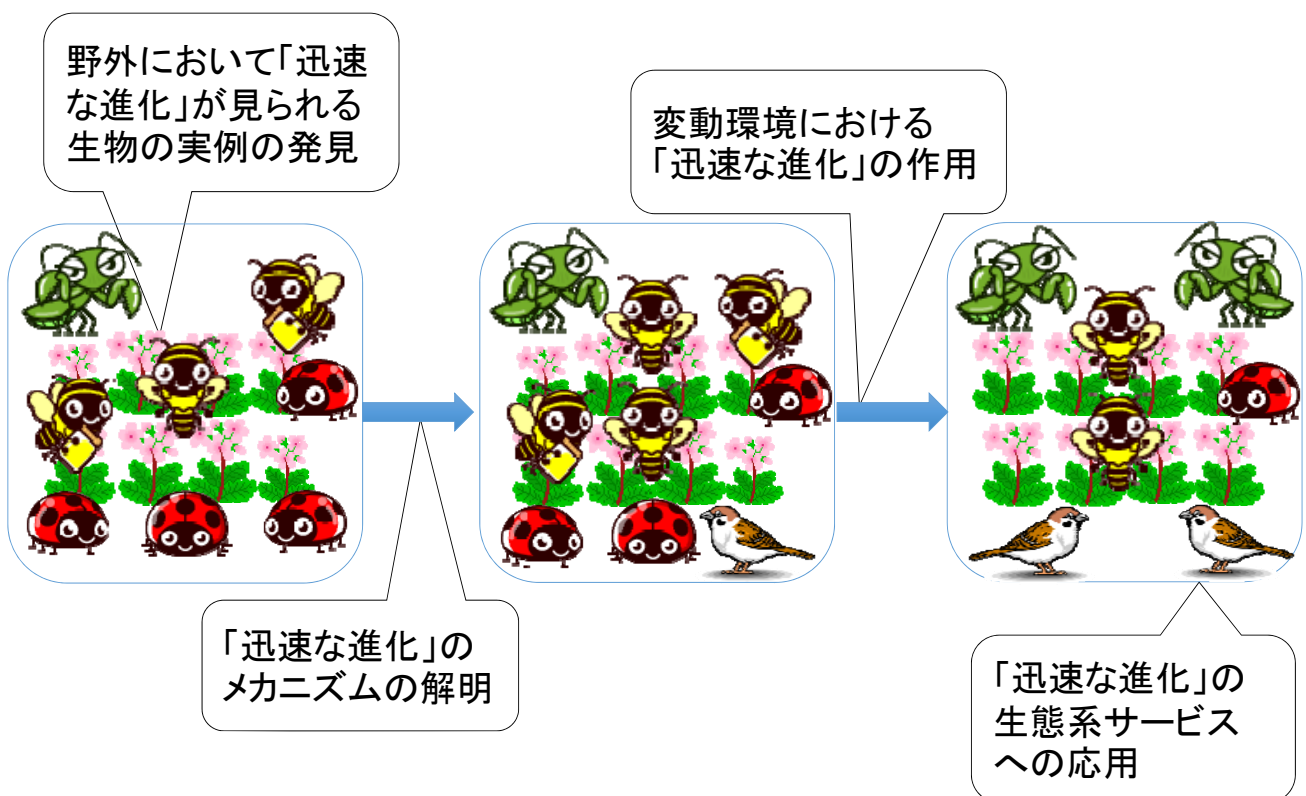
環境変化に生物がどう反応するか研究することは急務

生物多様性に対する環境改変の影響



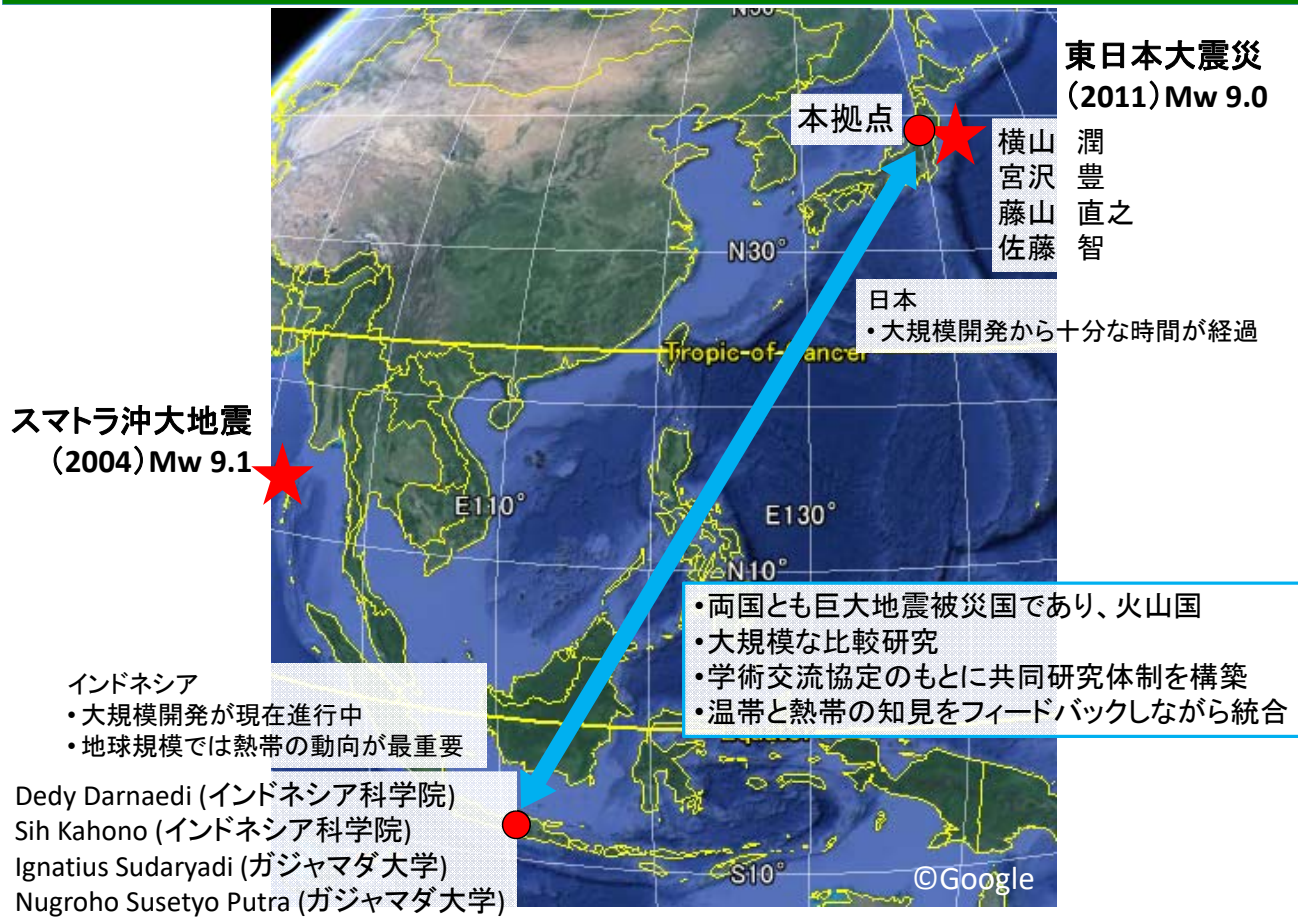
環境改変は生物多様性の様々な階層に影響を与える

本拠点で明らかにすること

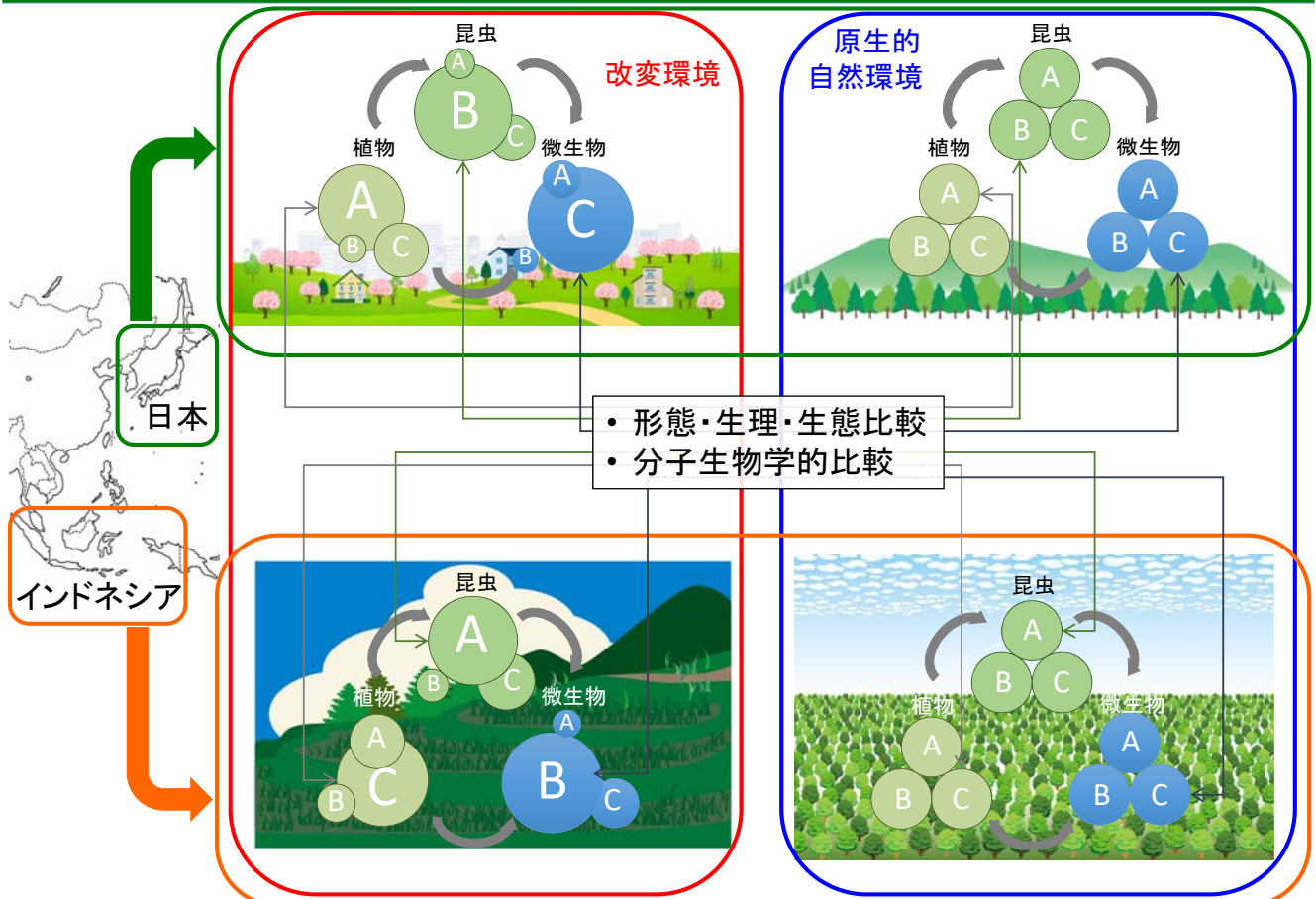


「迅速な進化」の階層横断的作用の研究は例がない

調査・研究フィールドの特徴と拠点メンバー



本拠点での比較研究のイメージ



想定される研究対象生物・対象システムの例(1)

- 広域分布する植物

日本 vs インドネシア, 原生環境 vs 改変環境



- 植物とエンドファイト菌類

原生環境 vs 改変環境



- 水田生態系に適応した動物

日本 vs インドネシア

- 植食性甲虫とその寄主植物



日本 vs インドネシア, 原生環境 vs 改変環境

多様な生物・システムから階層横断的影響を探る

タイムテーブル

平成29年度

平成30年度

国内調査地・
調査種選定

国内調査地・
調査種選定(追加・変更が必要な場合)

インドネシア側と
共同研究打合せ
(メール等)

インドネシア側と
共同研究協定調印

国内野外調査

国内野外調査

国内の材料に基づく
実験室内の研究

・インドネシア側と
共同研究打合せ
(現地)

インドネシア調査
(現地メンバーの調査も含む)

・インドネシア調査(現地メンバーの調査も含む)

インドネシアの材料に基づく
実験室内の研究(現地メンバーの室内実験を含む)

研究論文発表・外部資金申請
(随時)

★
国際シンポジウム
開催

「迅速な進化」研究のアウトプット

- 地域の環境保全への成果のフィードバック(地域貢献)
- 開発途上国への成果のフィードバック(国際貢献)
- 先端研究・国際交流を通じたグローバル人材の育成
- 環境変動に対する生物群集動態の将来予測(温暖化対策、愛知ターゲット対策)
- 解明された分子メカニズムの応用(環境保全・育種など)
- さらなる外部資金獲得と先端研究



平成29年6月1日
山形大学

超薄型触覚ディスプレイ素子の開発（東海理化包括共同研究）

山形大学と(株)東海理化との包括共同研究の一端として、峯田貴教授(MEMS、マイクロマシン、超微細加工)らは、間隔1mmで配列したマイクロピンを微小振動させて、触れた指先へ様々なパターンの触覚情報を提示する超薄型の触覚ディスプレイ素子を開発しました。従来開発されていたのは厚さ数cm以上の大型素子でしたが、形状記憶合金の蒸着膜とリソグラフィ等のマイクロマシン素子形成時手法により、厚さ1mmのマイクロチップ状素子を基板上へ一括形成する手法を実現し、超薄型化が可能になりました。この研究成果は、6月に開催される固体センサ・アクチュエータ・マイクロシステムに関する国際学会で発表する予定です。

1. 包括共同研究と本研究テーマについて

山形大学は、(株)東海理化と2010年から包括共同研究を締結し、様々なテーマの共同研究に取り組んできました。超薄型触覚ディスプレイ素子の研究は2015年度からスタートしたものです。(株)東海理化(本社・愛知県)は、山形県内に東北技術開発センターも持つ車載機器メーカーです。

2. 超薄型触覚ディスプレイ素子の研究の背景

表面に触れた指や掌へ、文字、記号、触感などの情報を提示する触覚ディスプレイ開発が試みられており、視覚障害者向け情報提示機器、携帯機器等に加え、視線を逸らさず操作が必要な自動車運転席の操作機器への応用も注目されています。表面に多数配列したマイクロピンを、電磁石、空気圧、形状記憶合金コイル、圧電ポリマ等の様々な方式で上下動作駆動する機械刺激タイプが開発されていますが、皮膚へ知覚させる十分な変位(振幅)と力を得るためにはメカが大型化し、実用的な用途が著しく制限されていました。中でも形状記憶合金は変位と力を両立できる非常に有望な方式ですが、厚膜形成や微細パターン加工が薄型の素子実現の課題でした。

3. 超薄型触覚ディスプレイ素子の研究成果

山形大学の峯田研究室では、形状記憶合金の特殊な蒸着法による厚膜形成、エッチングによる微細パターン加工など、素子形成プロセス技術を開発してきており、同研究室および(株)東海理化のもつ触覚提示の基礎的な知見に基づき、厚さ1mmで8mm角サイズのマイクロチップ状の超薄型触覚ディスプレイ素子(ピン配列5行×5列、1mmピッチ)を開発しました。可動ピンやマイクロばね等も感光性硬質樹脂のリソグラフィ(露光転写)法で精密一括形成し、振動刺激の検知感度の高い振動数における十分な動作振幅と発生力を実現し、指先への触覚提示を可能にしました。超薄型のマイクロチップ状の素子を基板上へ一括形成できるため量産性も期待できます。

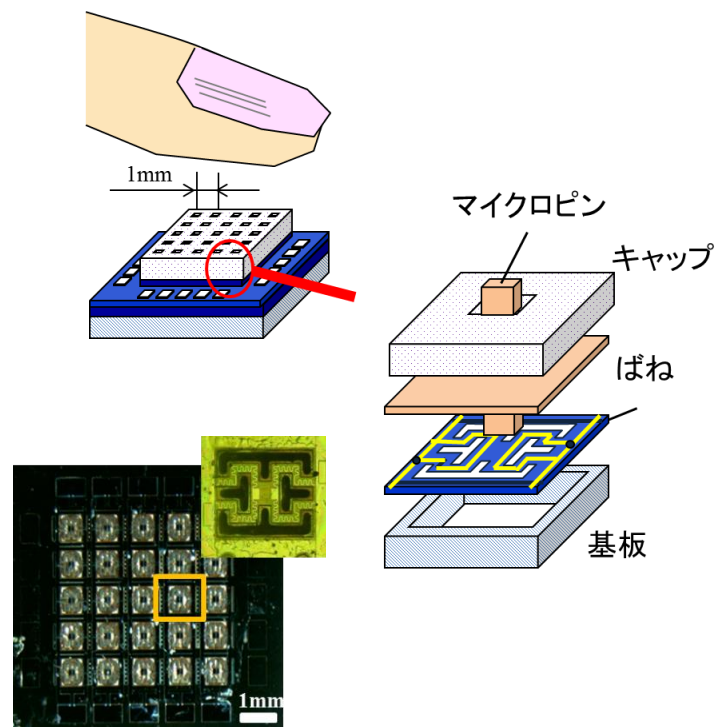
本研究の最新の成果は固体センサ・アクチュエータ・マイクロシステムに関する国際学会(Transducers2017、6月18日～22日、台湾)で研究成果を発表予定です。複数の特許も共同出願し、今後は触覚提示性能の詳細検証や長期使用時の高信頼化に取り組み、実用製品につなげていきたいと考えています。

(お問合せ先)

研究に関すること 山形大学 学術研究院 教授 峯田貴 (MEMS、マイクロマシン、超微細加工)
Tel. 0238-26-3192 峯田研究室

包括共同研究に関すること 米沢キャンパス事務部研究支援課 菅井 Tel. 0238-26-3004

meil:koukenkyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



開発した超薄型触覚ディスプレイ

平成29年6月1日
山形大学

コワーキング・スペース“C&Cひがしね”を拠点とした

山形大学による地域価値創成の取り組み

山形大学では、「地域価値創成学研究所」を発足させ、今年4月1日からJRさくらんぼ東根駅2階で、東根市が設置したコワーキング（※）スペース“C&Cひがしね”を運営しています。

【地域価値創成学研究所】

地域産業界における多様な主体と連携したアクション・リサーチを通じた地域産業構造の変革実現を目的として、山形大学は「地域価値創成学研究所」を新設した。

地域企業の多くは長く下請け体質にあり、必ずしも独自に新たな価値を創成できる開発型企業になっていないところが多い。また、地域企業が開発型（価値創成型）企業に変貌するプロセスに関する理工学および経営学の研究はほとんど行われていなかった。

そこで、山形大学地域価値創成学研究所では、新たな価値創成の実際プロジェクトを展開しながらそのマネジメント過程を理論化する。

そのプロジェクトの一つとして、東根市委託事業として運営するコワーキング・スペース“C&C”を拠点として、市民や地域企業との連携活動を行う。

【C&Cひがしね】

1. 目的

創業者や起業を志す者、仕事のスキルアップのために自己研鑽に励む者などがオープンスペースを共有しながら、それぞれが独立した仕事を行うとともに、利用者間の交流やコミュニティの創出を図る。

また、創業、就業、新規事業展開等の機会を得る支援を図るとともに産学金の連携によるセミナーや相談会を開催し、地域の産業振興、就業支援及び創業支援の促進を図る。

2. 施設概要

所在地：東根市さくらんぼ駅前一丁目1番1号 さくらんぼ東根駅2階（約60㎡）

開館時間：平日10:00-20:00 土曜10:00-17:00

閉館日：日曜・祝日及び年末年始

料金：18歳以上3,000円／月または500円 ※学生はそれぞれ半額

設備：25名程度利用可能。ホワイトボード、プロジェクター、プリンター完備。

無料無線LAN（wi-fi）利用可能

3. 名前「C&C」の由来

Creation（創造） & **Communication**（コミュニケーション）

Community（コミュニティ：地域社会） & **Companies**（企業）

Cherry-Camp（海外ではコワーキングスペースネットワークを○○campと称するケースが多い）

4. 主な活動予定

- (1) MONTHLY 特別講座（山形大学研究者、学生等（別添資料参照））
- (2) 学生への支援活動
- (3) 居住者情報交流案内
- (4) その他、施設内活動・相談室は常時実施

5. これまでの主な動き

【オープン式（4/1）】

4月1日に行われた「オープン式」では、はじめに土田正剛市長がコワーキングの意義と山形大学への期待を述べられたあと、伊藤浩志工学部副学部長が「東根市民のみならず、企業のみなさまからありがたいと思っていただける活動を行います」とあいさつ。関係者によるテープカットに引き続き、チーフプロデューサーの小野浩幸教授が具体的な活動紹介と施設の案内を行いました。



あいさつする土田正剛東根市長



関係者によるテープカット



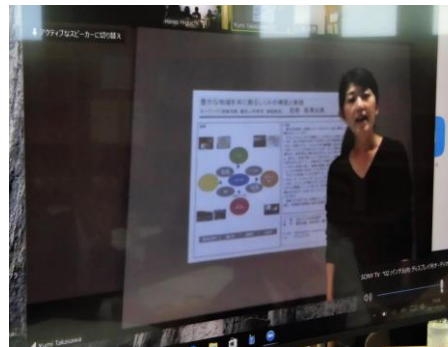
小野チーフプロデューサーの説明

【セミナー開講式（5/26）】

5月26日のセミナー開講式には東根市内外から**47名**が参加し、事業活動紹介・施設案内の後、小野チーフプロデューサーによる基調講演「C & C ひがしねで地域の価値創成を試みよう」が行われました。参加者からは「創業や産業に興味のある人はもちろんですが、あまり興味のない人でも、ためになり、とてもおもしろいお話だと思います」などの感想がありました。



あいさつする児玉MOT専攻長



WEB会議で米沢キャンパスと通信



基調講演する小野教授

【C & C ひがしね来場者状況（5/27）現在】

	累計(人)
2Fフロアーへの来場者	4,539
C & Cへの来場者	289



コワーク 事務スペース



スタッフ紹介パネル

※コワーキング（Co-Working）とは、事務スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら、各々が独自の仕事を行う“協働のワークスタイル”のことをいいます。サンフランシスコで始まり、またたく間に世界中に広がりました。単なる貸事務所ではなく、入居者たちが交流し、互いに刺激し合うことで、親睦を図りながら仕事上の相乗効果が期待できます。

（お問合せ先）

コワーキングスペースC&Cひがしね プロデューサー
山形大学地域価値創成研究所 産官学連携研究員
二宮 保男

電話・FAX : 0237-53-6996

E-mail : cchigashine@yz.yamagata-u.ac.jp

東根市にコワーキングスペース

“C & C ひがしね”

シー・アンド・シー・ひがしね

(Cherry-Camp, Creation & Communication, Community & Companies)

オープン!!



東根市にコワーキングスペースがオープンしました。在宅ビジネス、個人創業、フリーランスなど多様な新しいビジネスに挑戦する市民を支援することで活力ある多様な仕事が東根市に生まれやすくなります。さらに市内外の企業や団体等と繋げることでビジネスの好循環を創出します。

場 所：東根市さくらんぼタント館（さくらんぼ東根駅）2階

設 置：東根市（運営を委託）

運 営：山形大学（大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻）

開館時間：平 日 10:00～20:00 土曜日 10:00～17:00

※**休館日：**日曜・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）

利用料金：① 18歳以上の者（1人あたり）1カ月3,000円（1日500円）

（会員制）：② ①のうち学生（1人あたり）1カ月1,500円（1日250円）

※個室や専用席は設けず、オープンスペース内の空席を自由に使用。

利用者が使用できる設備（個別の費用負担なしで利用できる設備）：

机、いす、書棚、会議・打合せスペース、プリンター複合機、Wi-fi、プロジェクター、電子会議用設備

コワーキングって何？

コワーキング (Co-working) とは、事務スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら、各自が独自の仕事を行う“協働のワークスタイル”のことをいいます。IT系のクリエイターなど新しいビジネスを行う人たちによりサンフランシスコで始まり、またたく間に世界中に広がりました。単なる貸事務所ではなく、入居者たちが交流し、互いに刺激し合うことで、親睦を図りながら仕事上の相乗効果が期待できます。

こう聞くと、何だか難しそうな印象ですよね。クリエイターなどのカタカナ言葉の仕事の人が海外で始めたなんて私たちには馴染みがなさそうです。東根市の「C&Cひがしね」は、日本で初めてのカントリースタイル（田舎流儀）のコワーキングスペースを目指します。和気あいあいの雰囲気の中で、山形大学のもつ知識を活用したミニ講習、専門家によるコンサルティング、地域内外の企業や金融とのネットワーキングなど多様な活動を行います。

ところで、フードプロセッサってご存知ですか？ 様々な材料が混ざり合って新しい料理になっていく道具です。コワーキングスペースって、いわばビジネスのフードプロセッサです。様々な人の交流し混ざり合って新しいビジネスの種やチャンスを生み出していきます。何かを創り出すのは参加する市民の皆さんです。

(チーフプロデューサー 小野浩幸)



コワーキングスペースは
ビジネスのフードプロセッサ



プロデューサーたち



チーフプロデューサー
小野 浩幸

山形大学 教授
大学院理工学研究科
MOT専攻 副専攻長

大学院で技術経営学を社会人に教える傍ら、金融機関とのネットワーク組織「産学金連携プラットフォーム」を立ち上げ年間約2,000件の中小企業支援を実践。平成28年内閣府産学連携功労者表彰を受賞。

大学と産業界との連携によるイノベーションをテーマとした全国組織「特定非営利活動法人産学連携学会」の学会長、地域活性化の事例や方法論を研究する「地域活性学会」の理事なども務める。



プロデューサー
二宮 保男

地域価値創成研究所
産学官連携研究員

半導体製造企業に31年間在籍し、その間、技術・品質保証・現場管理・計画・経理・総務・購買と「ものづくり」に必要な多くの職種に携わることで、企業における多くの課題を体験する。

平成25年度以降、その経験を生かして大学研究者と企業との産学連携の橋渡しに従事し、企業の技術課題にあたる。

活動のモットーは、「三方良しで考える」、そして「最後まで関わる」の精神で取り組んでいる。



プロデューサー
高橋 政幸

COC+推進室
コーディネータ

大手包装容器製造の企業出身、現場主義を貫くコーディネートスタイルで大学と産業界との連携によるイノベーションのプロデュースを目指す。産学金連携により創業、新分野進出、経営革新の支援等中小企業の課題解決や新たな取り組み等、様々な相談に対応する。

(山形県地域コーディネータを兼務)

平成26年、独立行政法人科学技術振興機構より【イノベーションコーディネーター賞】を受賞

コワーキングスペース
C&Cひがしね
MONTHLY
特別講座

コワーキングスペース C&Cひがしねでは、月に一度、ここ山形で活躍するゲストスピーカーをお招きし、特別講座を開催しております。なかなか聞くことのできない講座を是非聞きにいらしてください。



期日
DATA

6 月

9 日

金

16:00~17:30

場所
PLACE

さくらんぼタント館 2F
JRさくらんぼ東根駅

GUEST SPEAKER



テーマ
THEME

「東根フルーツワイン」の軌跡

講師
GUEST

阿部 利徳氏

PROFILE プロフィール

1998年 2月～
山形大学農学部生物資源学科助教授
2002年11月～
山形大学農学部生物資源学科教授
2010年 4月～
山形大学農学部食料生命環境学科教授

金額
PRICE

C&C コワーキングスペースひがしね会員様…無料
非会員様…500 円

大学を定年で退職してから、今後どうするかを考えたときに、故郷に帰って、これまでの酒造りの経験を生かす仕事をしたいと考え「東根フルーツワイン」という会社を起業することにしました。これは、東根の有り余る果実から付加価値の高いワインを生み出す仕事です。皆様のご協力をいただいて、ワインで地域に還元したいと考えています。

お申し込み

平成29年6月6日(火)

までにお申し込みください。

申込み・問い合わせ先／コワーキングスペース C&Cひがしね(二宮)

TEL/FAX 0237-53-6996 E-mail cchigashine@yz.yamagata-u.ac.jp

申込書

ふりがな		職業 (会社名 等)
氏 名		
電話番号		
メールアドレス		

コワーキングスペース
C&Cひがしね
MONTHLY
特別講座

コワーキングスペース C&Cひがしねでは、月に一度、ここ山形で活躍するゲストスピーカーをお招きし、特別講座を開催しております。なかなか聞くことのできない講座を是非聞きにいらしてください。



期日
DATA

7月14日 金 16:00~17:30

場所
PLACE

さくらんぼタント館 2F
JRさくらんぼ東根駅

GUEST SPEAKER



テーマ
THEME

静電気を応用する技術

講師
GUEST

杉本俊之氏

PROFILE プロフィール

1996 山形大学工学部 電気電子工学科 助手
2000-2001 米国ボストン大学客員研究員
2004 山形大学地域共同研究センター准教授
2007 山形大学大学院理工学研究科 准教授

金額
PRICE

C&C コワーキングスペースひがしね会員様…無料
非会員様…500 円

静電気は、やっかいなものという印象が強いですが、うまく使いこなせば、様々な応用があります。本講演では、静電気の発生原因、測定方法を解説したうえで、測定法として表面抵抗測定、塗膜物性測定への測定応用や、除電法として無風除電、低電圧除電への応用、駆動法として静電吸着・脱着への応用等について、研究シーズのいくつかを紹介します。

お申し込み

平成29年7月11日(火) までにお申し込みください。

申込み・問い合わせ先／コワーキングスペース C&Cひがしね(二宮)

TEL/FAX 0237-53-6996 E-mail cchigashine@yz.yamagata-u.ac.jp

申 込 書	ふりがな		職業 (会社名 等)
	氏 名		
	電話番号		
	メール アドレス		

平成29年6月1日
山形大学

山形大学男女共同参画フェスタ2017を開催します

6月21日(水)～7月14日(金)、「男女共同参画週間」に合わせて、山形大学男女共同参画フェスタを開催します。山形大学では、大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学とともに、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」に平成27年度に採択されており、女性研究者の活躍促進を図るために各種の事業を3機関で連携して展開しています。フェスタでは、セミナーとパネル展を企画しており、3年目となるこの事業の成果報告なども行います。

1. 男女共同参画セミナー

研究及び職場環境におけるダイバーシティの重要性を理解し、意識改革を推進するため、毎年セミナーを開催してきました。今年度は、誰もが能力を発揮できる社会にしていくために、採用・面接・賞の選考などの場面で現れやすい「無意識のバイアス」について、この分野の第一人者である大坪久子氏を講師にお迎えし、セミナーを開催します。

関心のある皆様はじめ、企業や行政の管理・人事担当の皆様の参加をお待ちしています。

日時：平成29年6月28日(水) 15:10～17:00

場所：山形大学小白川キャンパス事務局棟第1会議室・各キャンパスTV会議室

内容：1 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)事業報告

2 講演会「多様な人材を活用するための人事選考のあり方

“Beyond the Bias and Barriers”」

講師 大坪久子氏(日本大学薬学部薬学研究所 上席研究員)

申込：FAX、電話、メールで申込み(参加無料、託児は要予約6/14まで)

2. パネル展

「ダイバーシティ」について理解を深め、考え始めるためのパネル展を企画します。

小白川キャンパス：6月21日(水)～6月30日(金)

学生会館1階、小白川図書館、インフォメーションセンター

米沢キャンパス：7月7日(金)～7月14日(金)

4号館1階 大示範教室前廊下周辺

内容：
・「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの取組、シーズ集の紹介」
・「ダイバーシティとLGBTを考える」
・関連図書コーナー

お問合せ・申込み先：男女共同参画推進室

TEL：023-623-4937/4938/4939

Email: y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学・大日本印刷(株)研究開発センター・山形県立米沢栄養大学 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型) 有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性の参画

取り組み内容(平成28年度)

支援制度構築

1. ダイバーシティ連携推進会議の設置
2. 研究支援員制度
3. 託児サポーター制度
4. 研究中断からの復帰支援制度
5. 夜間、休日、病児・病後児、学童保育支援制度
6. 相談員制度
7. シンポジウムの開催／管理職研修会
8. ホームページによる情報発信(日/英)

女性研究者の裾野拡大

1. 女子高校生・大学生・大学院生等対象の裾野拡大セミナー
2. 大学院進学セミナー
3. 博士・ポスドク対象就職セミナー
4. 大学院生とロールモデルとの交流
5. 交換留学プログラム
6. 女性研究者研究成果発表会
7. 女性研究者比率目標設定

女性を含む共同研究促進

1. 共同研究開発セミナー
2. 共創型サービスデザイン・プロジェクト
3. 女性研究者シーズ集発行
4. 3機関の研究所紹介リーフレット発行
5. <平成27年度活動報告>ダイバーシティ連携推進報告書

女性リーダー輩出

1. 女性代表共同研究支援制度
2. 自己啓発合宿
(研究開発・マネジメント能力開発)
3. 外部資金獲得セミナー
4. メンター制度
5. 上位職数値目標設定



シンポジウム開催



研究支援員制度



平成28年度 管理職セミナー開催



セミナーの様子



女性研究者シーズ集発行

達成目標

女性研究者19%以上 女性上位職14%以上

共同研究(平成28年度)

女性の考える『快適で豊かな未来』の実現



女性代表共同研究

- (1) 適正な嚥下調整食提供のためのモバイル型食品物性評価ソールの開発
- (2) 身体活動量と骨量等身体組成の相互関連性に関する基礎的研究
- (3) 印刷法を用いたフレキシブル運動ストレスセンサの開発
- (4) 新しいサプリメント開発を目指した肺発生促進制御の解明
- (5) 山形県特産物の活用による女性の生殖寿命の向上を目指す研究: 低品質卵子を改善する賦活化培養系の構築と食品栄養学的視点からのアプローチ
- (6) さくらんぼ鮮度保持用「相変化潜熱蓄冷保冷ゲル」新素材の開発
- (7) AI時代に求められる学力・教養に資する研究
- (8) すべての人にやさしい病院内表示の開発
- (9) 身体障がい者の骨密度分布と要因に関する検討
- (10) 可食インクを用いた、見て楽しい食材の開発と保育所給食や学校給食への導入

連携体制



連携内容

実証工房スマート未来ハウスでの実証・実験

サービスデザイン・プロジェクトの実証



女性研究者の共同研究の促進・参画

支援制度の充実
女性研究者の採用・登用の促進
女性研究者の裾野拡大

実証実験促進

共創型ワークショップ(サービスデザイン・プロジェクト)

DNP サービスデザインラボ



女性研究者支援及び全教職員・学生の支援

ダイバーシティ研究環境の実現



ダイバーシティ連携推進会議 議長 阿部宏慈

〒992-8510 山形県米沢市城南4-3-16 山形大学工学部内 男女共同参画推進室米沢分室
TEL: 0238-26-3356/3359 E-mail: y-danjoyz@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/diversity/>



文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）

山形大学 ・ 大日本印刷株式会社研究開発センター ・ 山形県立米沢栄養大学

託児あり

管理職セミナー

多様な人材を活用するための人事選考のあり方
“Beyond the Bias and Barriers”

2017年 **6月28日** 水 15:10～17:00



講師

大坪久子 氏

日本大学 薬学部薬学研究所 上席研究員
元日本大学総合科学研究所・教授



九州大学大学院薬学研究科修了、薬学博士（1975年、九州大学）専門は「動く遺伝子」。1970～80年代、ニューヨーク州立大学博士研究員を経て研究准教授。その後、東京大学分子細胞生物学研究所講師、北海道大学女性研究者支援室客員教授、日本大学総合科学研究所教授（元女性研究者支援推進ユニット長）を歴任。男女共同参画学協会連絡会第4期副委員長、提言委員会委員長。現在のテーマは「理工系における日米欧の女性研究者支援プログラムとその背景の研究」

場所

小白川キャンパス 事務局棟第1会議室（3F）

TV
会議

飯田キャンパス 医学部第2会議室
米沢キャンパス 講義棟3F会議室
鶴岡キャンパス 農学部テレビ会議室

対象

連携機関に所属する管理職、研究者、教職員、
自治体・企業人事担当者等

問合せ
申込先

山形大学男女共同参画推進室

TEL 023-628-4939・4938 FAX 023-628-4014

Email y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

管理職セミナー

多様な人材を活用するための人事選考のあり方 “Beyond the Bias and Barriers”

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学は、文部科学省 科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）に採択され、連携して女性研究者の活躍推進を図るため、各種の事業を展開しています。

このたび、事業の一層の理解と活用促進を図ると共に、研究及び職場環境におけるダイバーシティの重要性を理解し、誰もが能力を発揮できる職場にしていくため、管理職セミナーを実施します。

申込み
期 限

2017年6月19日(月)

切り離し不要。このままお送りください。

申込書

FAX: 023-628-4014

連絡先等をご記入ください。※選択項目はレ点をご記入ください。

お 名 前				
所 属 先			※学生のみ 学年（ ）	
電 話 番 号				
Eメール アドレス				
参加を希望する会場を選択してください（複数選択可）				
6/28（水）	☐ 小白川 （現地）	☐ 飯田 （TV会議）	☐ 米沢 （TV会議）	☐ 鶴岡 （TV会議）
【託児希望】 ☐ あり ☐ なし				
託児を希望される場合は、6月14日までにお知らせください。 別途、託児に必要な情報を確認させていただきます。				

※ご記入いただいた個人情報は、厳密に管理し、他には一切使用いたしません。

問合せ・申込みはコチラ

電話・メール
も受付OK！

山形大学男女共同参画推進室

TEL 023-628-4939・4938 FAX 023-628-4014

Email y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成29年6月1日
山形大学

山形大学附属博物館特別展開催のお知らせ

平成29年度山形大学附属博物館特別展「山形大学附属博物館ものがたり～収蔵品が語る90年のエピソード～」を開催します。

附属博物館は山形県師範学校時代の郷土室にそのルーツがあります。以来いまに伝えられた博物館の収蔵品を紹介しながら、近代教育が始まった明治時代にまで遡る山形大学の歴史を振り返る展覧会です。

☆収蔵品から辿る山形大学の歴史

近代教育が始まって間もなく、山形には1878（明治11）年に本学地域教育文化学部の前身である山形県師範学校が設立されました。また、1920（大正9）年には人文社会科学部、理学部の前身である山形高等学校が開校しました。両校から引き継いだ教材や表札等から山形大学の歴史を振り返ります。

☆収蔵品が語る90年のエピソード

附属博物館が所蔵する《相良人形 宮城山》は元々、旧山形県教育会館内にあった「山形県郷土博物館」の資料でしたが、戦時中山形師範学校郷土室に移管され現在に至ります。また、宮城山は1927（昭和2）年の《山形県教育展覧会記念写真帖》に展示風景が収められた貴重な資料です。これらの資料や附属博物館のルーツである郷土室にあったことが明らかな資料等から附属博物館の歴史を紹介します。

【実施概要】

主催：山形大学附属博物館

共催：山形大学小白川図書館

会期：平成29年6月12日（月）～8月18日（金）

開館時間：9時30分～17時

休館日：土曜、日曜、祝日（ただし8月11日（金・祝）はオープンキャンパスのため開館日）、8月14日（月）～16日（水）

【関連企画】

第20回大学博物館等協議会・第12回日本博物科学会（6月22日（木）、23日（金））の開催に併せて、本学小白川図書館所蔵の《広開土王碑拓本》、《物部守屋大連之碑拓本》を展示します。

期間：平成29年6月20日（火）～6月30日（金）

場所：山形大学小白川図書館1階

開館時間：平日（8時15分～21時）、土日（11時～18時）

（お問合せ先）

山形大学附属博物館・押野美雪

電話 4930



山形大学附属博物館 ものがたり



《山形県教育展覧会記念写真帖》(部分)

2017 年

6.12 (月) ▶ 8.18 (金)

時 間／9 時 30 分ー 17 時 会場／山形大学附属博物館
休館日／土曜、日曜、祝日 (ただし 8 月 11 日 (金・祝) はオープン
キャンパスのため開館日)、8 月 14 日 (月)ー 16 日 (水)。

お問合せ

山形大学附属博物館

山形県山形市小白川町 1-4-12

TEL : 023-628-4930

FAX : 023-628-4668

E-mail hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

関連企画

6.20 (火) ▶ 6.30 (金)

《広開土王碑拓本》

他 1 点を特別展示

場所／小白川図書館 1 階

山形大学附属博物館は山形県師範学校時代の郷土室にそのルーツがあります。以来いまに伝えられた博物館の収蔵品を紹介しながら、近代教育が始まった明治時代にまで遡る山形大学の歴史を振り返る展覧会です。



《カムチャッカ産鮭鱒の種類》(部分)



《相良人形 宮城山》



入 場 無 料



《注意書き 火の用心》

アクセス：JR 山形駅前から『県庁行』バス乗車「山形南高前」下車徒歩 10 分。
山形大学専用駅循環シャトルバスが運行しています。詳しくは山形大学 HP をご覧ください。

平成 29 年 6 月 1 日
山 形 大 学

*** 詳細は別添の資料をご覧ください。**

1. 第4回山形大学・東華大学ジョイントシンポジウム開催について

中国上海の東華大学から教員4名と学生18名が訪れ、米沢キャンパスでジョイントシンポジウムを開催します。過去3回は、博士課程教育リーディングプログラムフレックス大学院と大学院有機材料システム研究科の学生たちが、短期海外研修として上海に赴き、東華大学で開催してきました。第4回目の今回は山形で初めての開催です。

日程：平成29年6月7日（水）、8日（木）

会場：山形大学 米沢キャンパス 11号館 未来ホール

内容：両大学の教員、学生による研究発表（口頭発表およびポスター発表）、施設見学

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎第8回学長特別講演会シリーズ「山形から世界へ」を開催します

平成27年度から開催している学長特別講演会シリーズを今年度も開催します。今回は、公益財団法人フォーリン・プレスセンター理事長（元国連事務次長）の赤阪清隆氏に『こうすればグローバル人材は育つ』をテーマにご講演いただき、学長との対談を行います。

日 時：平成29年6月29日（木）16:30～18:00

会 場：小白川キャンパス 基盤教育1号館112号教室

定 員：180人（事前申込み必要）



◎やまがた『科学の花咲くプロジェクト』サイエンス・コミュニケーター養成講座

～スライムマイスター／クラゲマイスター養成講座のご案内～

やまがた『科学の花咲く』プロジェクトでは、地域や家庭で科学の不思議さや面白さを教える講師や補助者になっていただくサイエンス・コミュニケーターとしてマイスターを養成しています。

○スライムマイスター養成講座（初級）

日程：平成29年6月18日（日）、24日（土）、
7月30日（日）または8月5日（土）

場所：山形大学SCITAセンター 他

○クラゲマイスター養成講座（初級）

日時：平成29年7月1日（土）～2日（日）、
7月30日（日）または9月17日（日）

場所：鶴岡市立加茂水族館 他



平成29年6月1日
山形大学

第4回山形大学・東華大学ジョイントシンポジウム開催について

6月7日（水）から8日（木）の2日間、中国上海の東華大学から教員4名と学生18名が訪れ、ジョイントシンポジウムを開催します。これまでは博士課程教育リーディングプログラムフレックス大学院と大学院有機材料システム研究科が、短期海外研修として過去3年間上海に赴き、現地の東華大学で開催しています。

第4回目となる今回は、日本での開催が実現することとなり、米沢キャンパスを会場に両大学の学生たちが口頭発表、ポスター発表を行います。

◆山形大学・東華大学ジョイントシンポジウム

フレックス大学院（コース1年次生）と有機材料システム研究科（修士1年・10名程度）は毎年秋に5日間程度の短期海外研修を受けます。グローバル企業や現地の大学とのジョイントシンポジウムを通じて、グローバルコミュニケーションの有り方を体験します。ここ3年は上海へ赴き、グローバル企業の見学他、東華大学への訪問・ジョイントシンポジウムを開催してきました。第4回目のジョイントシンポジウムを山形大学で開催することで、これまで築いてきた東華大学との関係・交流を継続・発展を期待します。

◆東華大学

上海市内に1951年に国家重点大学として設立されました。繊維工学、服飾デザイン、材料科学、情報技術を強みとし、海外でも高い知名度を持つ大学です。

【第4回山形大学・東華大学ジョイントシンポジウム】

日程：平成29年6月7日（水）、8日（木）

会場：山形大学 米沢キャンパス11号館 未来ホール

内容：両大学の教員、学生による研究発表（口頭発表およびポスター発表）
施設見学

（お問合せ先）

学術研究院 准教授 松葉 豪

電話 0238-26-3053

Joint Symposium of Yamagata University and Donghua University



**June 7 (Wed) – 8 (Thu), 2017
MIRAI Hall & Lounge (2F),
Frontier Center for Organic Materials (Building 11),
Yonezawa Campus**

Supported by 一般社団法人米沢工業会

Organized by Yamagata University Faculty of Engineering

Introduction

Yamagata University

Yamagata University (YU) is a national university located in the Japanese cities of Yamagata, Yonezawa, and Tsuruoka in Yamagata Prefecture.

The university was established in 1949, YU has four campuses, Kojirawaka, Iida, Tsuruoka and Yonezawa. The university has approximately 10000 students. The university is the second largest university in north-eastern area in Japan (Tohoku area).



Donghua University

Donghua University (DHU), formerly China Textile University, was founded in 1951. Located in the downtown area in Shanghai and adjacent to Hongqiao Economic Development Zone, DHU is one of the state-key universities directly under the Ministry of Education of China. Its feature disciplines, such as Fashion Design, Textile Engineering, International Trade, Material Science, and Information Technology have received high reputation both domestically and abroad.



Begin	End	Speaker	Name	Moderator
09:30	09:35	Introduction of YU	Bungo Ochiai	Go Matsuba
09:35	10:05	Presentation of YU	Tomoya Higashihara	
10:05	10:40	Introduction & Presentation of DHU	Yan Wang	
10:40	10:50	Coffee Break (10 min)		
10:50	11:00	Student Lecture SL-01	Seijiro Fukuta	Chen-Tsyr Lo
11:00	11:10	SL-02	Shuo Chen	
11:10	11:20	SL-03	Tao Zhao	
11:20	11:30	SL-04	Yuki Tsuda	
11:30	11:40	SL-05	Kunmin Zhang	
11:40	11:50	SL-06	Baoxiu Wang	
11:50	13:00	Lunch at meeting room, 5F Building 11		
13:00	14:30	Lab tour (building 10, 11, GMAP center)		
14:30	14:45	Back to “Future Hall” & Break		
14:45	14:55	SL-07	Kun Li	Masato Makino
14:55	15:05	SL-08	Fei Chu	
15:05	15:15	SL-09	Yuji Hirai	
15:15	15:25	SL-10	Jiayou Quan	
15:25	15:35	SL-11	Ting Wan	
15:35	15:45	SL-12	Kumkum Ahmed	
15:45	16:00	Coffee Break (15 min)		
16:00	17:30	Poster Session (90 min) SP-01~SP-20		
18:00	20:00	Party at “Café AZUMA”		